

# 栗林公園施設長寿命化計画

(概要版)

令和 8 年 4 月

香川県 交流推進部 栗林公園観光事務所

1. 都市公園整備状況

(令和8年 3 月末時点)

管理対象都市公園の数	管理対象都市公園の面積	一人当たり都市公園面積
1	16.20 ha	0.18 m <sup>2</sup>

2. 計画期間（西暦）〔2026 年度～ 2035 年度（10 箇年）〕

3. 計画対象公園

(1) 種別別箇所数

街区	近隣	地区	総合	運動	広域	風致	動植物	歴史	緩緑	都緑	その他	合計
0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

(2) 選定理由

平成28年3月に公園施設長寿命化計画を策定して以降重要性が高くかつ老朽化の顕著であった栗林公園について、長寿命化計画を早急に見直し策定する必要があった。

4. 計画対象公園施設

(1) 対象公園施設数

園路広場	修景施設	休養施設	遊戯施設	運動施設	教養施設	便益施設
83	20	91	0	0	24	23

  

管理施設	災害応急対策施設	その他	合計
764	0	7	1,012

(2) これまでの維持管理状況

県が直営で管理し、栗林公園観光事務所の造園課が主体となり、日常管理から改築・改修を手掛けている。

備考) 経過年数、これまでの維持管理状況、施設の劣化の可能性を記述

(3) 選定理由

対象とした都市公園の全公園施設を対象とした。

5. 健全度を把握するための点検調査結果の概要（個別施設の状態等）

公園を対象として予備調査および健全度調査を実施した。  
始めに全公園施設を対象とした予備調査を行い、公園台帳や過年度報告書に記載される施設種類および施設数を確認し、現地と整合した施設リストを作成した。  
健全度調査では、公園施設長寿命化計画策定指針（案）【改定版】と県の管理方針を踏まえて、事前に健全度調査を行う予防保全型管理候補施設を抽出して調査を実施した。健全度調査の実施に当たっては、下記の専門技術者により点検を行った。

- ①土木・造園施工管理技士等による一般施設の健全度調査
- ②建築士による建築物の調査

(施設)

	健全度判定				備考
	A	B	C	D	
a. 一般施設 ( 933 )	44	887	2	0	-
c. 土木構造物 ( 38 )	6	24	7	1	-
d. 建築物 ( 41 )	11	17	13	0	-
b. 遊具等 ( - )	-	-	-	-	-

備考) 点検調査実施時期・期間、点検調査方法、点検調査結果の概要  
(公園施設の健全度に関する全般的状況) を記述

## 6. 対策の優先順位の考え方

対策の優先順位は、健全度判定および施設重要度から緊急度を設定（高・中・低の3段階）し、これに基づくこととした。  
 健全度判定Dの施設は緊急度高に分類する。  
 健全度判定Cの施設については、緊急度中に分類した。  
 健全度判定A、Bの施設については、緊急度低に分類した。

(施設)

	緊急度判定		
	高	中	低
a. 一般施設 ( 933 )	0	2	931
c. 土木構造物 ( 38 )	1	7	30
d. 建築物 ( 41 )	0	13	28
b. 遊具等 ( - )	-	-	-

備考) 個別施設の健全度調査結果や、各都市公園の周辺地域における将来人口、年齢構成の変化、一定の誘致圏内における機能の重複、都市公園が設置されているエリアの立地適正化計画上の位置づけ等に基づく緊急度判定の状況、考え方を記述

## 7. 対策内容と実施時期

### (1) 日常的な維持管理に関する基本的方針

現場作業は県職員と香川県観光協会高松支部が行っている。（業務委託）。  
庭師として、県職員9名、香川県観光協会高松支部職員7名（計16名）で主に松の剪定に従事。  
管理体制は、南庭班（剪定等）、北庭班（剪定等）、専門技術班（薬剤散布等）、管理班（草刈り、竹垣更新等）、営繕班（修繕等）で構成。  
建築系の定期点検は、1回/4年行っている。  
GISを利用して施設の維持管理の適正化を図る。

備考) 公園施設の種類に応じた日常点検や定期点検ごとの点検実施体制、点検方法などの基本的な方針を記述  
新技術の活用を踏まえた維持管理に関する基本的な方針を記述

### (2) 公園施設の長寿命化のための基本方針

#### 【予防保全型管理候補施設】

- ・ 劣化や損傷が進み、緊急度を「高」や「中」と設定した公園施設に対する長寿命化のための補修、もしくは更新を行う。
- ・ 「健全度（劣化）ランクB」以上を維持することを目標とする。
- ・ 予防保全型管理として、公園施設の日常的な維持保全に加え、日常点検、定期点検の場を活用した定期的な健全度調査を行う。
- ・ 毎年の法令点検等を行う設備以外の公園施設については、5年に1回以上の健全度調査を実施し、施設の劣化損傷状況を確認する。

#### 【事後保全型管理候補施設】

- ・ 健全度調査を実施しないため、維持保全（清掃・保守・修繕）と日常点検で公園施設の機能の保全と安全性を維持する。
- ・ 日常点検で施設の劣化や損傷を把握した場合、施設の更新を行う（基本的に使用見込み期間での更新は行わず、健全度（劣化）判定「D」の手前で更新を検討する）。

備考) 点検調査により把握した健全度や、各都市公園の周辺地域における将来人口、年齢構成の変化、一定の誘致圏内における機能の重複、都市公園が設置されているエリアの立地適正化計画上の位置づけ等を踏まえた、公園施設長寿命化のための基本的な方針を記述（次回の点検・診断、修繕・補修・撤去・更新、その他必要な対策（複数の公園を対象とした再編・集約化の検討等）について、講ずる措置の内容や実施時期を記述）

## 8. 追加要件に対する取り組み

### (2) 公園の再編・集約について

香川県内の県立公園は、それぞれ固有の歴史的背景や地域特性、自然環境、利用目的を踏まえて整備されてきたものであり、公園ごとに異なる役割や位置づけが存在している。

そのため、単純に再編や集約を行うことは、以下の点から望ましくない。

#### 1. 各公園が果たす役割の多様性が失われる

県立公園は、自然保全、文化財の保護、レクリエーション、地域振興など、それぞれが異なる目的を担っている。再編・集約により役割が画一化されると、これらの多様な価値を十分に発揮できなくなる可能性がある。

#### 2. 地域ごとの利用ニーズへの対応が困難になる

公園は地元住民の生活環境や観光資源とも密接に結びついている。各地域のニーズや利用実態に応じた公園運営が求められる中で、拠点の統合は地域性の反映を弱め、使い勝手の低下を招くおそれがある。

#### 3. 自然環境・文化資源の適切な保全に支障が出る可能性

公園ごとに保全すべき自然環境や景観、文化的資源は異なる。再編によって管理体制が一元化されると、個別課題に応じたきめ細かな保全が難しくなる可能性がある。

### 【香川県の県立公園位置図】



(出典：地図・空中写真閲覧サービス (国土地理院))

香川県の県立公園の概要一覧

公園名	写 真	概要
大滝大川県立自然公園		讃岐山脈の中でも最も標高の高い地域で、大滝山のブナ林や大川山のイヌシデ林などの貴重な自然環境を有する地域のひとつである。
亀鶴公園		県立亀鶴公園は、東讃きっての桜の名所。西方に鶴の飛ぶ姿を形どっている”鶴が山”があり、宇佐神社境内には碑の石だん・万葉の庭となっている。
琴林公園 (通称：津田の松原)		白砂の長い海岸と樹齢 600 年に及ぶ老松 3000 本などが繁り「津田の松原」と呼ばれ親しまれている。
栗林公園 (特別名勝)		江戸時代の大名庭園が起源。松林・池泉風景など、日本を代表する回遊式庭園として知られる。
琴引公園		瀬戸内海国立公園にも含まれる名勝琴弾公園。園内には銭形「寛永通宝」があり、瀬戸内海を背景白砂青松の有明浜は琴弾山山頂からの眺望が見どころとなっている。
琴平公園		金刀比羅宮（こんぴらさん）の社殿や参道石段を、真正面に近い形で望むことができる貴重な展望スポット
瀬戸大橋記念公園		1988 年（昭和 63 年）に瀬戸大橋の開通を記念して整備された施設。瀬戸大橋の壮大な景観を間近で楽しめるスポットとして人気がある。
坂出緩衝緑地		臨海工業地帯・市街地・住居地域などの発展に伴う環境保全・生活環境の保護を目的に整備された緑地。
粟島海洋記念公園		明治 30 年、粟島に誕生した日本初の海員養成学校。昭和 62 年に廃校になった後も大切に保存され、昔の船舶機器や模型など多くの資料を展示。
桃陵公園		瀬戸内海を見渡せる桜の名所で、春には町花・町木である桜が 1,500 本咲きほこり、多くの花見客で賑わっている。

(写真：HP等より引用)

## (2) 新技術の活用

### ① 地理情報システム（GIS）を活用した維持管理の効率化

施設の維持管理において、今後、地理情報システム（GIS）を活用することにより、各施設の位置情報・数量・健全度・修繕の履歴等を空間的に把握・一元管理することが可能になり維持管理業務の効率化を図ることが可能となる。

### ② ドローン等による点検手法の効率化

#### ・背景・課題

本公園には伝統的な建築物が多く、茅葺屋根や瓦屋根等屋根勾配が急であったり、文化的価値より直接接触することが望ましくない箇所に対して、従来点検では、足場設置や高所作業車の必要性や作業員の転落リスクが考えられる。

#### ・ドローン等活用による点検の効率化

特に屋根部は勾配が急で点検範囲も広く、従来手法では部分的な確認にとどまることが多かったが、ドローンにより屋根全体を短時間で俯瞰的に確認することが可能となる。

また、撮影した画像・映像を記録として保存することで、経年変化の比較や補修計画の検討に活用でき、点検業務全体の効率化に寄与する。文化財的価値の高い建築物に直接立ち入らないため、瓦の破損や部材への接触といった二次的な損傷リスクの低減にもつながる。

従来必要であった足場の設置や高所作業を省略できるため、点検準備および作業時間を大幅に短縮できるためコスト削減を図ることができる。

#### ・ドローン等活用の安全性の向上

ドローン点検では、作業員が地上から遠隔操作で確認を行うため、高所作業等を回避でき、作業時の安全性が大きく向上する。

### 栗林公園内の伝統的な建物



商工奨励館（本館）



便所（講武榭）

### ドローンによる屋根点検イメージ



（秋田県ドローン協会HPより）

## 9. 都市公園別の健全度調査結果、長寿命化に向けた具体的対策、対策内容・時期など

健全度調査結果は5に記載のとおりである。  
長寿命化に向けた具体的対策については、緊急度「高」の施設は、撤去更新もしくは修繕を行い、緊急度「中」「低」の施設は、対策が必要な施設を選定し、健全化対策として撤去更新もしくは修繕を行う。  
対策内容・時期については、傷みや老朽化が著しい掬月亭の改修を優先的に取り組むこととし、2026（R8）年度～2027（R9）年度の改修を想定するが、その他の施設については健全度調査結果を踏まえ、適宜対応する。

## 10. 計画全体の長寿命化対策の実施効果

公園施設のうち一般施設については、健全度調査の結果から判断し、適切な更新や補修を計画した。  
ライフサイクル縮減効果に応じた管理類型に分類することで『659千円』の縮減効果（単年度あたり）が見込まれる。  
また、重要度と緊急度が高いものについては急を要するが、出来る限り費用が単年に集中しないよう更新と補修時期を分散することで、財政面の平準化を図る計画を作成した。